

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572308567
法人名	株式会社 日本ケアシステム
事業所名	グループホーム しらさぎ苑
所在地	秋田県潟上市飯田川飯塚字塞ノ神143番地3 (電話) 018-877-7833
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年9月17日

【情報提供票より】(21年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	390 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(8月27日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.22歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小玉医院 南秋田眼科 南秋田整形外科 おおくぼ歯科診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧国道沿いの住宅街に位置し、劇場を改築したホームは天井が高く、採光の取り入れも良く明るく開放的なホームとなっている。職員は身体機能の維持向上を目指し、体操や回想法、家事作業等の支援を行い、利用者の生活ペースに合わせ、ゆったりと暮らしていけるよう支援している。また、地域の行事への参加、奉仕活動、ホーム内の行事も多岐に行われている。職員の経験やレベルに応じて積極的に研修へも参加し、内部研修を独自に開催するなど、組織的体制で職員を育成している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で、改善課題は特に無かったが、常にケアの向上を意識し、改善すべき点がないか、全員で話し合いが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は自己評価に取り組み、自分たちのケア内容を点検し、更に利用者が生き活きと心地よく生活が送られるように努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の運営推進委員会では、家族・自治会長・民生委員等に出席してもらい、外部評価、日常生活の報告や課題について討議されている。委員会での意見や提案事項を受け入れることでケアの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	定期的に利用者の様子を写真付きのお便りで報告している。家族や運営推進会議での意見や要望、苦情を受け付ける体制が整っており、運営者・管理者・職員は話し合いを行い、ケアの質の向上など運営へ反映させている。また、面会時には必ず出納簿へ確認印を頂くなど、金銭管理も十分に行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会へ加入し、住民との交流や奉仕活動に参加し、運営理念などの理解を得られるよう心がけている。また、小学生の下校時間に合わせ、スクールガード的な役割を果たすなど地域との連携にも取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いつでも笑みを」という理念の下、安心と尊厳ある生活で、地域に根ざした生活に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者の健康維持やニーズに沿ったケアプランで常に地域との関わりを考えながら、運営者・管理者・職員が連携し、理念を共有したケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ参加し、奉仕活動を通じてホームへの理解に努めている。また、小学生の下校時間に合わせてスクールガード的な活動を行うなど、地域住民との交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を通じてケアの向上に繋がることを全職員が理解しており、改善すべき点がないか、常に話し合いが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており、自治会長や民生委員、保護者らに参加していただき、その意見は事業所の運営に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは利用者の状況を伝えたり、様々な情報をいただくなど、日常的に連携しスムーズな運営に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納状況を報告している。また、面会時には出納簿に印鑑をいただくなど、適切に処理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に意見・要望を聞き出し、事務室窓口付近へ苦情箱を設置したり、家族等の意見が反映されるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限とし、異動があった場合でも、前任者との引き継ぎは十分に行われている。また、前任者がホームに顔を出すなど、ダメージを防ぐ配慮もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で研修計画を作成し、職員の経験やレベルに応じて研修に参加している。また、内部研修も定期的の実施され、職員の質の向上を常に目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内のグループホーム連絡協議会に加入し、同業者との交流に努めている。また、相互訪問等の活動や勉強会により、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	住まいが変わることへの不安やストレスを職員は理解して、本人の生活歴や状況をきちんと受け止め、個々にアプローチしながら穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の大先輩として、得意なことを教えてもらったり、話を聞かせてもらうなど、共に生活する中で、支え合う関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者・職員は利用者一人ひとりの思いに関心を持ち、理解するよう努めている。本人の思いや意向を理解することが困難な場合でも、家族の協力を得ながら本人の側に立ち支援するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴等を把握し、意欲的な生活が送れるよう、その人らしい介護計画が作成されている。また、面会時や電話等で家族の要望を聞き出し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別記録は時間帯により色分けされており、記録を基に、職員、家族、本人と話し合いを行い、毎月介護計画の見直しが行われている。利用者に変化が生じた場合は、随時介護計画の見直しを実施して対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に添った外出支援や訪問看護等の利用、医療機関との連携など、柔軟な支援がされている。また、家族が希望する際はターミナルケア体制も整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切に、かかりつけ医等の受診を継続している。受診時は職員が必ず付き添い、変化があれば家族への連絡も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期の段階で医師や家族と話し合い、ホーム独自のターミナルケア対応指針と照らしながら、統一した方向性になるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	優しく、さりげない言葉かけで誇りやプライバシーに配慮した支援を行っている。また、記録物は事務室内の施錠できる書庫で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、思いに沿った1日になるよう生活援助されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る範囲の準備や片付けが行われている。また、職員も一緒に食事を摂ることで自立に向けた食事になるよう支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴支援予定表が作成されているが、健康状態を確認し、希望があれば適宜入浴出来る体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事、散歩等、利用者が過去に経験した事を楽しみながら行えるよう、積極的に機会を作り支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望を考慮し、買い物・散歩・ドライブ等外出支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は施錠せず利用者の見守りに努めている。玄関センサーにより、安全にも配慮されている。ホームは旧国道沿いにあり、夜間のみ玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、災害マニュアルに沿って避難訓練を実施し、自治会とも連携されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関連法人の管理栄養士が作成した献立により栄養バランスが管理されている。毎食の食事・水分量が把握され、状況により形態を変えて支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光が差し込む共有スペースはロールカーテンにより適度に調整され、明るく開放的である。ソファや畳スペースがあり、利用者が思い思いに過ごせるよう確保されている。ホーム内の臭いにも常に配慮され、心地良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには装飾を付けて、自分の居室がわかるようにし、居室内には使い慣れた物が持ち込まれており、安心して居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

※ は、重点項目。